



水産業



インド ニューデリー BOP実態調査レポート

水産業は、インドの主要産業の一つであり、2009-2010年の総生産は6,791.3億ルピーで名目GDPの0.96%を占め、海産物の輸出は81.3万トン、金額で1,290億ルピー（2010-11年）であった。

海面漁業データ

海岸	8,118Km
排他的経済水域 (EEZ)	2.02百万km ²
大陸棚	530千km ²
水揚げ場	1,376カ所
漁村	3,322村
漁民世帯	764,868世帯
漁業従事者	3,574,704人

内水面漁業データ

河川および運河	195,210km
貯水池	31.5百万ha
溜池および池	2.41百万ha
氾濫原/放棄水域	1~1.5百万ha
汽水域	1.24百万ha
塩性/アルカリ性水域	1.2百万ha

出所：インド計画委員会



海面漁業



内水面漁業



■漁獲高～海面漁業と内水面漁業（単位：千トン）

海面/内水面別漁業生産量(単位：千トン)

年度	海面漁業	内水面漁業	合計
2004-2005	2,784	3,520	6,304
2005-2006	2,816	3,755	6,571
2006-2007	3,024	3,845	6,869
2007-2008	2,920	4,207	7,127
2008-2009	2,978	4,638	7,616
2009-2010	3,041	4,811	7,852
2010-2011	3,223	5,072	8,295

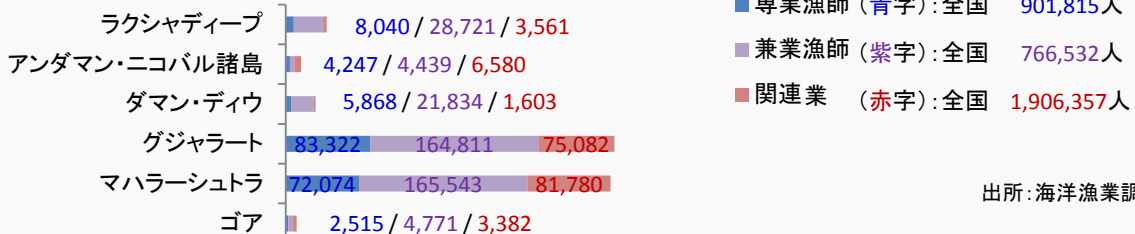
出所：インド畜産酪農水産局

水産部門を支えているのは202万 km²の排他的経済水域(EEZ)と8,118 kmに及ぶ海岸線、さらに内陸部の総延長45,000 kmの河川、300万ha以上に広がる貯水池である。

インドは、中国とバングラデシュに続く世界3位の内水面漁業生産国となっている。

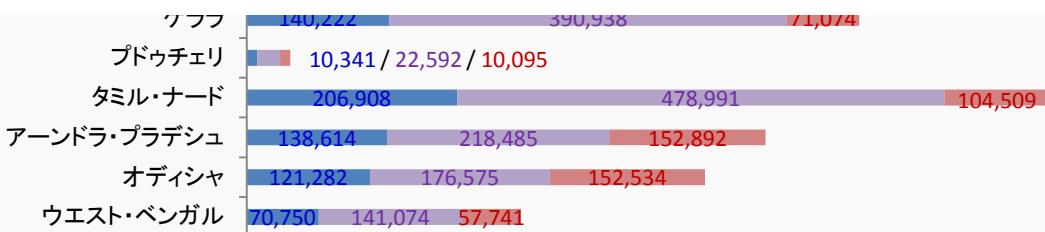
■海面漁業従事者数(単位：人、2011年)

州・連邦直轄領



出所：海洋漁業調査

出所：インド畜産酪農水産局



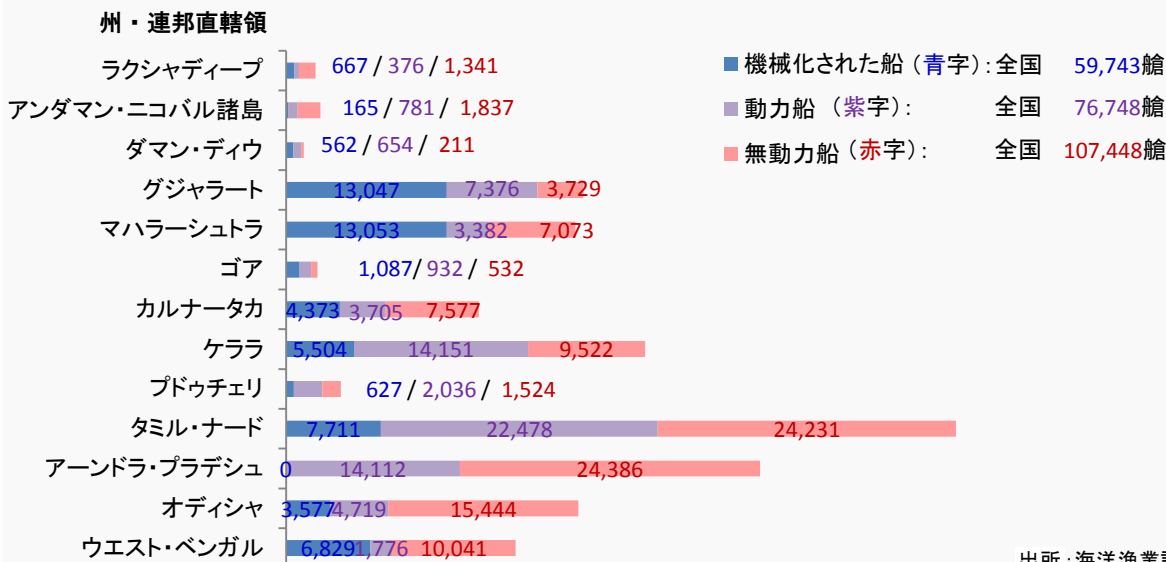


漁業用機材

名称	価格(ドル)	所有形態	注記	
漁船 (動力船)	9,000 ～ 12,000	リースの 場合が 多い	沖合の漁場での漁に使用されるエンジン付き中型船。10～15人乗り。	
トロール船 (動力船)	9,000 ～ 12,000	リースの 場合が 多い	トロールは広く普及している漁法である。船のエンジンは60～120馬力、10～12人乗り。	
刺し網	88～95	個人所有 または リース	商業漁業でよく使われる方法。特にインドの南海岸で最もよく使われている。主に、大型の魚の捕獲を目的として使われているが、しばしば大きなエビがかかっているのが見られる。	
投網	25～40	個人所有	河川での漁に最もよく使われる漁具。一人で取り扱える。	
曳き網	35～45	個人所有	人手が必要。主に浅瀬での漁に使われる。水深1～3mの水域での漁に適している。	



■船の機械化の状況（単位：艘、計画委員会報告2012から）



主な課題

- ◆ 資金不足のため、水産部門のインフラが整備されていない。
- ◆ 適切なインフラ設備がないために、水揚げ後の廃棄が多く、品質悪化を招いている。
- ◆ 養殖に利用できる未活用の水面がかなりある。
- ◆ 数日をかけたり、特定魚を狙うための漁がされず、多様化していない。
- ◆ 水産に関わる部門や組織間のネットワーク化や調整がされていない。
- ◆ 養殖を農業と同等に扱う包括的政策と水産業に関する法律の制定が必要。
- ◆ 漁業組合や自助グループ(SHG)の関与と漁民の福祉の保障が欠けている。
- ◆ 零細養殖業者は適切な販売経路を持っていない。
- ◆ 消費者に受け入れやすい魚/水産品を生産する加工のための施策が欠けている。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。